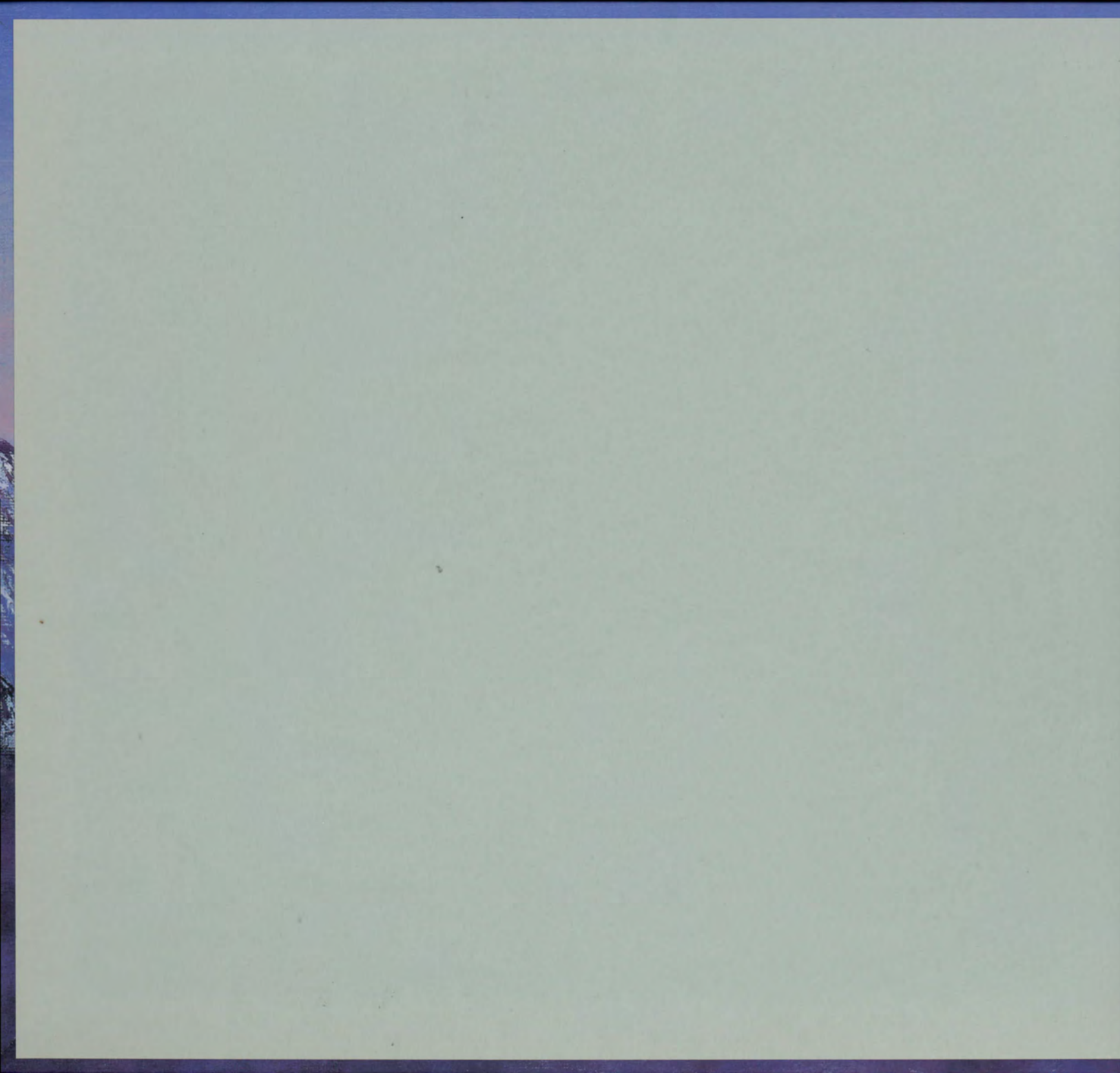




K. TAKEI



武井清山岳画選集

発刊によせて

槍ヶ岳山荘 穂苜 康治

武井清先生との出会いは、日本山岳画協会の皆さんと平成7年から創めた「槍ヶ岳スケッチ教室」でした。武井先生には2代目の幹事として大変お世話になりました。穏やかな、飾らないお人柄故に現地のスタッフ・関係者や登山者の皆様とも親しく又和やかに接していただき感謝しております。

先生は小学生当時より絵がお好きで、中学校美術部顧問の西村計雄先生（東京美校出身・ピカソの友人・後にフランス文化勲章授与）に美校受験を勧められ、親の反対で断念されたこともあったそうです。又、山好きなお兄さんと一緒に学生時代から山に登っていましたが、冬山スキーで見た冬の白馬三山の景観に感激し、さらに北穂滝谷と出会い大変感動され以後本格的な山岳画を生涯のテーマとして活動を始められました。

先生はアルピニストとしても御活躍されていますが、岩登りでは、マッターホルン、モンブラン、アイガー等の登頂もされたとのこと。槍周辺でも北鎌尾根踏破・小槍の登攀・積雪期の槍登山等積極的に挑んでこられました。特に小槍登攀は、スケッチ教室にいらした都度登られていますので、既に5回を数えています。

そんなお姿が先生の作品の中にダイナミックさと微妙な色合いで表現されているのではないかと思います。今回武井先生より画集の出版に際し、拙文を寄せる栄を戴きました。ありがとうございます。そして、画集出版誠にありがとうございます。先生には、山の絵の文化の灯を絶やす事なくこれからも、四季折々に様々な表情を見せる山の魅力を「絵」という形で表現していただきたいと思います。

武井清さんの山の絵

日本美術会会員
日本山岳画協会会員
熊谷守一美術館館長

熊谷 榎

1965年に、アンデスの氷河に落ちて亡くなった山川勇一郎さんの紹介で、1961年に私は日本山岳画協会に入ったのだが、その後は江村真一さんを除いて、『この会には山で遭難しそうな人はいないわね』と冗談を云っていた。

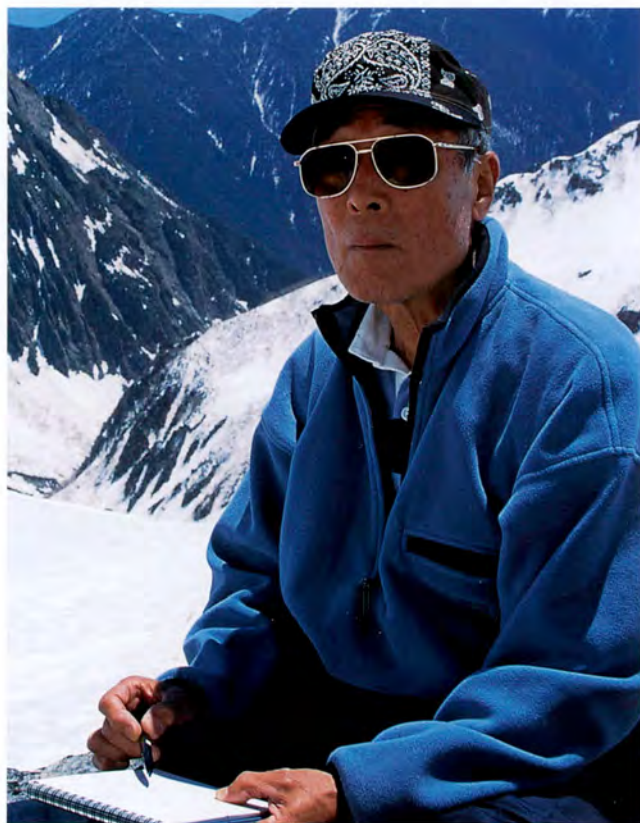
ところが1998年に武井清さんが入会してくると、かなりお年なのにハードな山登りをしている。これはまだ山岳画協会の会員にも遭難の可能性があると思ったものだ。

武井さんの山の絵は、絵はがきなど印刷だとなかなかその良さが分りにくいものだが、実物の油絵をじっくり見ると、細部まで筆が行き届き、山の空気を伝えている。山を宿から見て描く人でなく、山に登って、山を体験して描いている人だと云えるだろう。

60才で、シャモニからツェルマットまで山スキーで越えるオートルートを完走し、65才にマッターホルンに登り、68才でモンブランに、そして72才でアイガー東山稜に登り、71才から75才まで毎年のように小槍の岩登りをしていたという武井さんは、山の写真を見て描く山岳画家とは全く違う。自分の足で山に登り、自分の手で岩肌を感じて絵で表現する数少ない山岳画家だ。

なお絵の表現の他に、趣味の域をこえた造園感覚がすごい。いつか山岳画協会の日野春での集りの帰り、葦崎ICからすぐの武井さんのアトリエにお寄りしたが、入口に巨大な石塔が並びどぎもを抜かれる。400坪の丘陵に木あり石あり、その間に住まいとアトリエがある。12年前にここに引越してくる前は、八ヶ岳山麓のサントリーウイスキー工場の近くに更に大きな700坪の武井さんの造園地があって、何度か造園雑誌にも取上げられたとか。

奥さん思いの武井さんは、車を使えない奥さんの買物の不便さを思い、今の所に来たそうだが、武井さんには絵だけにとどまらず、何かスケールの大きさを感じる。



Yoshi Atee



澗沢岳より槍ヶ岳 F15



槍ヶ岳夕照
F15



槍ヶ岳 東鎌尾根
F10



槍ヶ岳朝陽(北穂高)
F20



蝶ヶ岳より槍ヶ岳 F80



快晴の槍ヶ岳(蝶ヶ岳) F50

北鎌平より槍ヶ岳
F12



Yoshiyuki Kashiwa



槍ヶ岳快晴 変25



槍ヶ岳と鏡池 F15



紅葉の鏡平より槍ヶ岳 F8



鏡平より槍ヶ岳 F30

槍沢紅葉(天狗原)
M10





奥穂高山頂より槍ヶ岳
F15



大喰岳より穂高連峰 F10



スケッチ



四月の滝谷(北穂高) F30



滝谷の朝（北穂高） F15



滝谷夕照(北穂高)
F80

Kenji Tani



奥穂ジャンダルム F10



残雪の西穂高
と梓川 F8



晩秋の上高地 F15

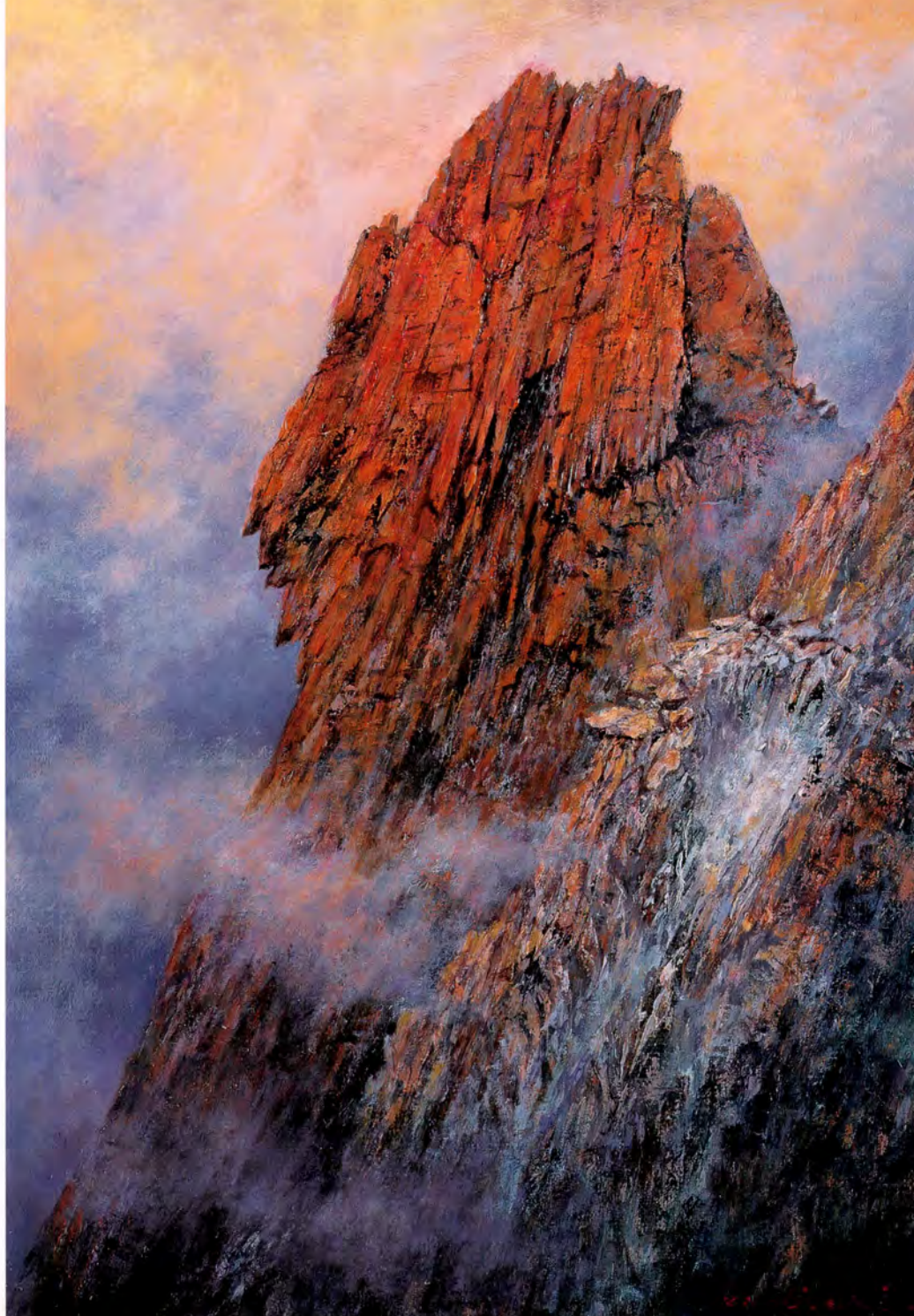


屏風岩(横尾谷) F15



スケッチ

小槍夕照
M20





徳本峠より穂高連峰 F20



鏡平より穂高連峰 変25



槍平より穂高連峰 F10



新緑の雲の平(薬師岳) F10



薬師岳と竜晶池 スケッチ



薬師岳と竜晶池 F12



鹿島槍(遠見尾根) F10



梅池より杓子岳 F12



劔岳 F10



劔三の窓雪溪 F10



剣八ッ峰と仙人池 F8



仙丈岳(早川尾根) F8



北岳快晴(甲斐駒より) F12



甲斐駒新雪 F12

北岳快晴(広河原峠) F8



甲斐駒ヶ岳 F15



甲斐駒新緑 F10



阿弥陀南稜より赤岳 F12



甲斐駒の春(清春美術館) F10



山麓の春(八ヶ岳) F8



春の八ヶ岳 F12



富嶽 F20



赤富士 M20



宝剑岳
F15



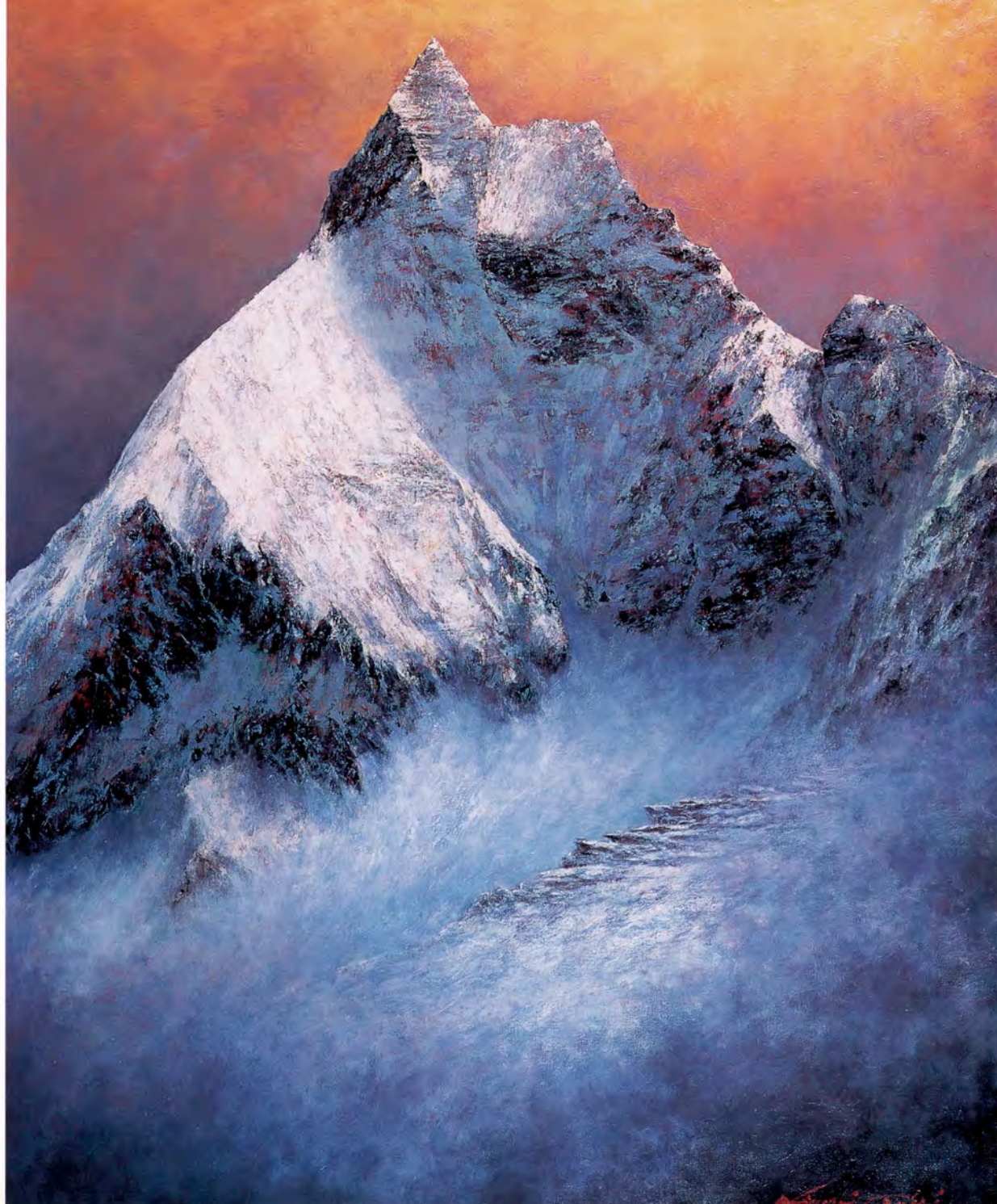
伊吹山浅春 F12



高遠の桜と仙丈岳 F8



マッターホルン
(ツェルマット)
F10



マッターホルン西壁
(オートルート)
F100



マッターホルン西壁(オートルート) F8



マッターホルン(スネガ) F10



モンブラン(コスミック小屋) F10



グランドジョラス F10



アイガー東山稜 M12



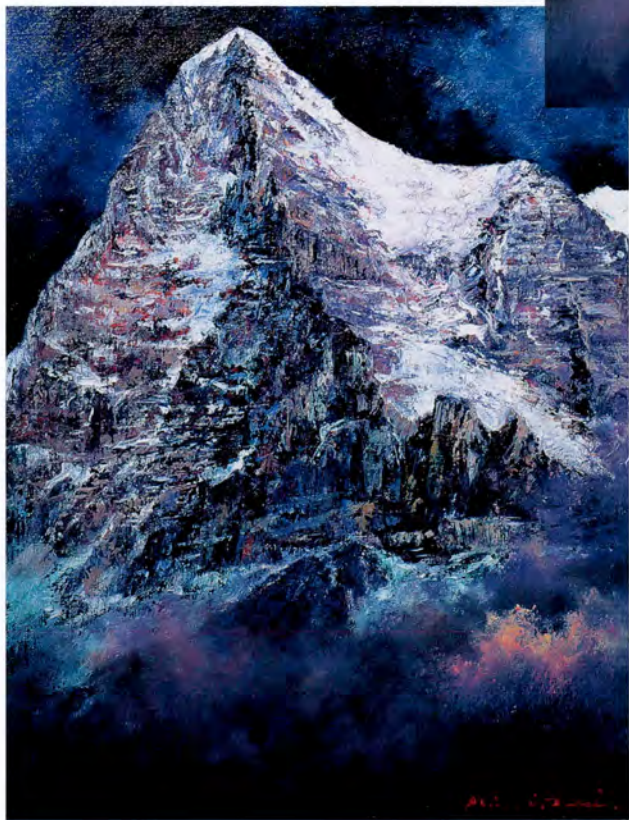
ビンダアローラ山頂よりマッターホルン F15



ドリュウとクレバス
(モンタンベール) M20



アイガーとメンヒ(クライネシャイデック) P15



クライネシャイディックよりアイガー F10



キャッスル山(カナディアンロッキー) F10



ソラピス峰とミズリナ湖(ドロミテ) F10



モレーン湖とテンピーク(カナディアンロッキー) F12



ピッツ パリュウ(ベルニナ山群) F15



タムセルク(ヒマラヤ) F100



油彩 ドライチンネ(ドロミテ)



油彩 ペワ湖とマチャプチャレ(ヒマラヤ)



スケッチ 北穂高 滝谷



スケッチ ドリュ(モンタンベル上部)



スケッチ ドライチンネ(ドロミテ)



スケッチ ブライトホルン(スイス・ツェルマット)



マッターホルン山頂にて



槍ヶ岳にて



針ノ木峠にて(バックは鹿島槍と爺ヶ岳)



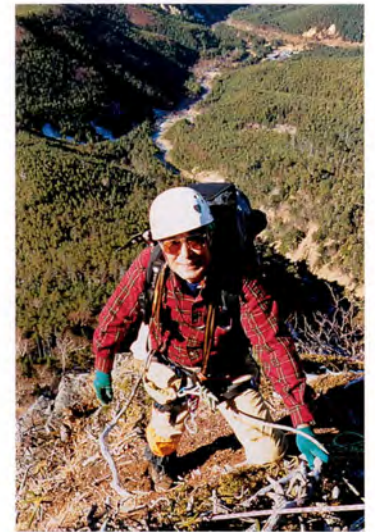
八甲田山にて



氷壁にアタック



小槍山頂にて



八ヶ岳大同心にて

あとがき

山の美しさに魅せられ、四季変化する山の表情を絵のテーマにしようと決めてから、もう半世紀を過ぎた。

山への限りない愛着、山のきびしさと達成時の深い感動が今日まで私を支えてくれたものと思う。若いころはただがむしゃらに登っていたのが、年と共にいつしか、その山に対する親しみや、山の奥深さ、自然の大きさを肌で感じるようになった。樹林帯を歩いている時に、心の安らぎや、山の気を感じるようになったのもその頃からである。

山の美しさ、自然のすばらしさを多くの方々に絵を通して伝えていきたいという、ささやかな目標に向って、これからも努力したいと思っている。

この画集を出すにあたって、序文をいただいた檜ヶ岳山荘の穂苅康治社長、熊谷守一美術館長で洋画家の熊谷榎さんをはじめ、絵の撮影に、写真の提供、装丁のアドバイス等々、大変お世話になった方々に、心からの謝意を表したい。



略歴

- 1931 東京に生れる。
 - 1953 中央大学卒業。
 - 1972 一水会員 相川昭二氏に師事。
 - 1979 銀座さえぐさ画廊にて初個展。都民展奨励賞。サロンデボザール特選。
 - 1981 光陽会奨励賞。アトリエを東京から山梨県に移す。
 - 1983 小田急新宿個展。以後毎年。
 - 1984 光陽会会員。日本山岳会入会。
 - 1987 名古屋三越個展。以後毎年。88 大阪阪神個展。以後毎年。88～94 池袋東武個展。
 - 1991 オートルート完走。～1994 ヒマラヤ、アンナプルナ、カラパタール等取材。
 - 1994～ 銀座三越、新潟三越、銀座松屋、上野松坂屋、大阪近鉄等で個展。
 - 1995 渋谷東急本店個展。以後毎年。マッターホルン登頂。97 モンブラン登頂。
 - 1998 日本山岳画協会入会。光陽会退会。アトリエを韭崎に移す。
 - 2003 アイガー登頂。イタリア、ドロミテ等取材。
- 現在、日本山岳画協会代表幹事。日本山岳会会員。

以上

表紙 檜ヶ岳春雪(蝶ヶ岳) F20

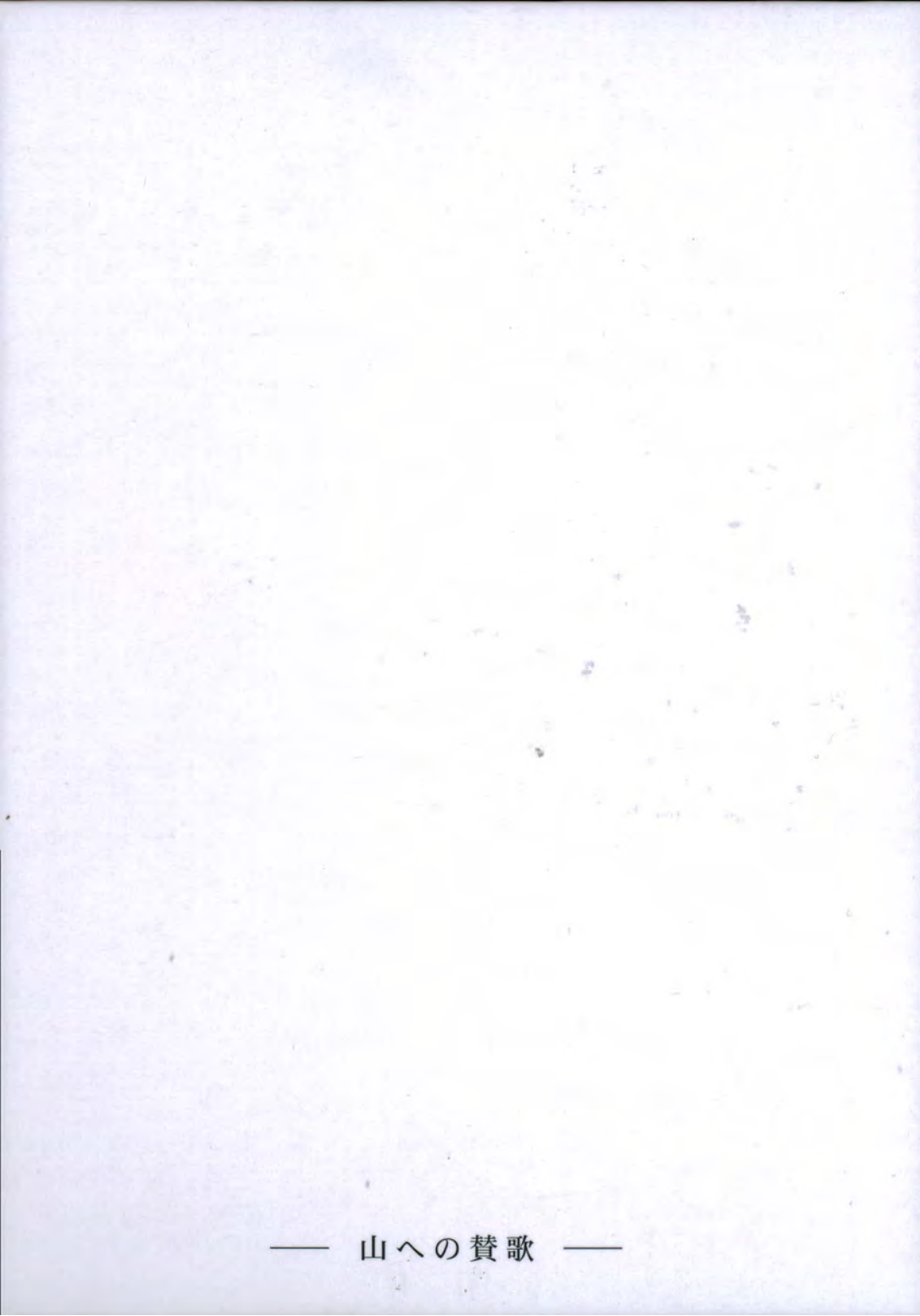
武井清山岳画選集

2010年6月18日発行

●編集・発行／武井 清
〒407-0011 山梨県韭崎市上ノ山3139
TEL・FAX 0551-22-0462

●印刷・製本／株式会社 オノウエ印刷
〒392-0015 長野県諏訪市中洲586
TEL 0266-52-8020 FAX 0266-52-3058
(超高画質600線相当印刷)





— 山への賛歌 —